

I. 研究主題

小学校・P T Aの統合から地域の統合へ

II. 高岡市立高陵小学校について

(1) 地域の概要

高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置し、平成17年11月1日に旧高岡市、旧福岡町が合併し誕生しました。市内の西側は山間地域で西山丘陵や二上山が連なり、北東側は富山湾、東側は庄川、小矢部川によって形成された良質な地下水を有する扇状地が広がるなど、深緑と清らかな水に包まれたとても自然豊かな地域です。「日本の渚100選」に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに3000メートル級の立山連峰の大パノラマを見ることができます。

定塚校区は、高岡市の玄関となる高岡駅や商店街、高岡大仏、図書館、美術館、前田利長が築いた高岡城の城跡の「高岡古城公園」があり、自然と商業に囲まれた地域です。平米校区は、重要伝統的建造物群保存地区であり、全国で5つしかない国の重要有形・無形民俗文化財の両方の指定を受けている「御車山」を保存管理している山町筋があり、高岡御車山祭の御車山行事は、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

両地区とも、近世高岡の歴史と文化と商業に囲まれた地域です。

(2) 学校の概要

高岡市立高陵小学校は、明治34年創校の定塚小学校（児童数401名）、明治45年創校の平米小学校（児童数103名）の2校が、令和4年度に再編統合され新たに開校されました。現在は、定塚小学校の校舎を活用していますが、令和8年に高陵中学校の敷地内に建設予定の新校舎でのスタートとなります。現在の児童数は全校で504名、17の通常学級と5つの特別支援学級の他に、平米小学校にて昭和45年から開設された、幼児や児童に対して話し言葉やコミュニケーションを指導、支援する高岡市言語治療教室「ことばの教室」で構成されています。

学校教育目標を「夢や目標をもって努力する、心豊かでたくましい子供の育成」とし、次の3つのプランを中心に、明日が楽しみな学校を目指しています。



高岡大仏



高岡七夕まつり



高岡御車山祭り



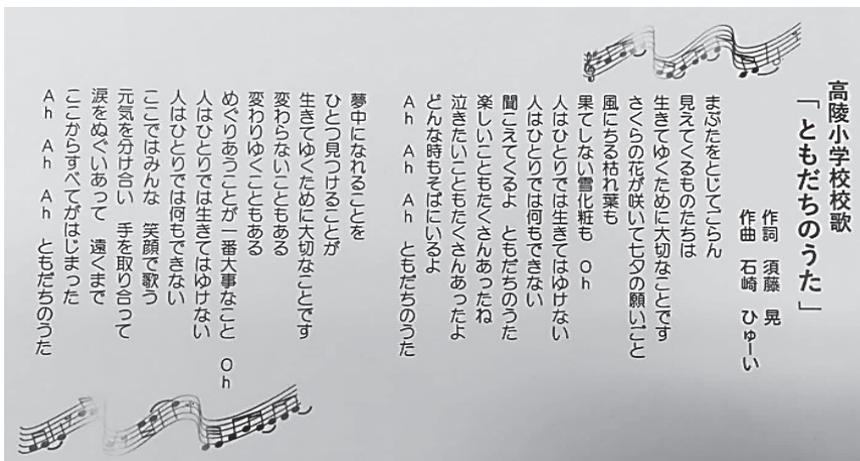
高岡市立高陵小学校

【ぐんぐんプラン】学ぶ楽しさを味わう授業づくり

【にこにこプラン】思いやりあふれる仲間づくり

【すくすくプラン】心と体の健康づくり

もともと線路を挟み高陵中学校と隣接している立地を活かし、9年間を見通した教育活動を推進しており、系統的な指導計画のもと、高陵中学校教員の乗り入れ授業も活発に行われています。



高陵小学校校歌
「ともだちのうた」
作詞 須藤 晃
作曲 石崎 ひゆい

まなだをいじりて
見せしめられた
生きてゆくための大切なこと
さくらの花が咲くころの願
風にちる花びら
果てしない雪化粧
人はひとりでは生きてはゆけない
人はひとりでは何事もできない
聞こえぬともだちのうた
楽しいこともたのしみもあつたね
泣きたいこともたのしみもあつたね
どんな時もそばにいます
A h A h A h ともだちのうた
夢中になれること
ひとしづむること
生きてゆくための大切なこと
変わらぬともだち
めいめいあつた
人はひとりでは生きてはゆけない
人はひとりでは何事もできない
こころはみな笑顔で歌う
元気を分け合い 手を取りあつて
涙をぬぐいあつて 遠くまで
ここからすべてがはじまった
A h A h A h ともだちのうた

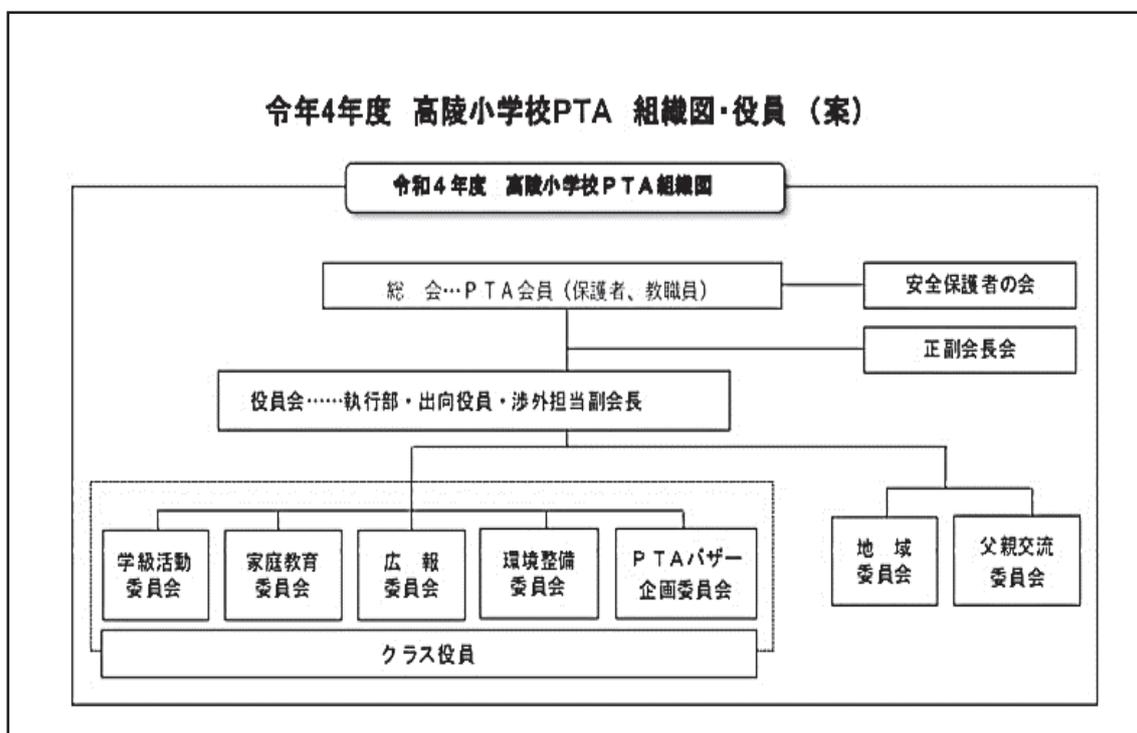
高陵小学校校歌



校歌QRコード

(3) P T Aの組織と活動

令和4年度4月のP T A総会を経て、高陵小学校P T Aが活動を開始しました。執行部の他、各学年の学級単位から選出されるクラス役員が所属する5つの委員会と、各校区自治会から選出される委員が所属する地域委員会、父親が自由に参加することができる父親交流委員会の7つの委員会に加え、会計や事務局、監事・安全保護者の会で構成されています。



- ・学級活動委員会：他のクラス役員と協力して保護者と学校のつながりを深めるための活動をする。
- ・家庭教育委員会：P T A会員の学習を目的とする講座、勉強会等を企画し運営する。
- ・広報委員会：保護者や地域に住んでいる方々へ情報を発信する。

- ・環境整備委員会：子どもたちの生活環境をよりよくするための活動をする。
- ・PTAバザー企画委員会：PTAバザーの企画・準備を中心となり活動する。
- ・地域委員会：児童と地域のパイプ役として活動する。
- ・父親交流委員会：校舎の清掃や整備・運動会準備、見まわりなどの活動をする。
- ・安全保護者の会：児童の安全確保に関わる活動をする。

Ⅲ. 研究について

(1) PTA統合に向けて

平成30年に定塚小学校と平米小学校が再編統合されると決まりました。当時、子どもたちが高陵小学校開校に希望と不安を感じていたと同様に、保護者も新しい学校や新しいPTA組織に希望と不安を感じていました。それぞれ慣れ親しんだ活動は継続されるのか、新たな活動で負担が増えるのではないのか、以前に受けた役員歴はどうなるのかなど、多くの事柄がありました。

令和2年4月より両校で「再編統合委員会」を設置し、両校のPTA役員会からいただいた様々な意見の中で、次の2点のことを基本として話し合いを進めることにしました。

- ① 私たちPTA（保護者）が先に統合（仲良くなる）することが、ゆくゆくは子どもたちが安心して、新しい学校に通学することに繋がる。
- ② 統合に向けての委員会を設置することにより、通常の役員会などで「進捗状況」や「課題」を報告し合い情報を共有する。このことが、新しいPTAで安心して活動することに繋がる。

再編統合を進めるに当たり、話し合いの場には高陵中学校PTA会長にも関わっていただき、定塚小学校PTA会長と平米小学校PTA会長に加え、それぞれの学校の再編統合委員会メンバーが一堂に会して開催することになりました。

まずは、お互いのPTA活動内容を中心に情報交換を始めました。同じ中学校ブロック内のPTAとしてお互いの活動等は知っているつもりでしたが、統合を前提に話をしていくとギャップを感じることがありました。特にPTAと地域との繋がり・関わり方に大きな違いがあることが分かりました。その中で、どちらも自分たちの行ってきた活動に自負と歴史があり、統合することによって変わっていくことに抵抗を感じていました。

コロナ禍で話し合う機会もあまり持てずにいた中で、「統合するのはそれぞれの過去や歴史ではなく学校である。私たちは新しい学校で子どもたちが心豊かに成長できる環境づくりの支援をするために統合する」との委員長の意見が、少し停滞していた委員会を動かす原動力となり、その内容を一つ一つきちんと精査をし、学校や子どもたちの支援をしていく上で、「PTAとして取り組んでいくべきこと」と「必要な活動を継続し、広げていくこと」に絞り、進めていくことになりました。



両校先生を交えての懇親バーベキュー



再編統合委員会の様子

IV. 具体的な実践研究内容

(1) P T Aの組織と会計、会費について

P T A組織の運営をしていくうえで一番重要な組織と会計、会費について、同時進行で取り組みました。両校のP T A組織図、委員会編成を参考にして、それぞれの委員会がどのような活動をしているのかを共有しました。委員会名や委員会の取組に若干の違いはあるものの基本的には同じような活動をしているため、最終的には定塚小学校の活動組織をベースとしていくこととなりました。

次に会計の作成に移りました。互いのP T A会費、一般会計や特別会計の収入支出を分解・分析することと、新しく始動する活動内容を比較し把握することから始めました。その中でも最も苦勞した一つは、新しいP T A会費金額の決定でした。両校のP T A会費には月額150円（平米小学校の方が高い）の違いがありました。もともと児童数や活動内容、会計業務の違いなどがあるため当たり前なのですが、こんなにも悩ましいことなのかと痛感しました。これを機会に高岡市のすべての小学校のP T A会費を調べ参考にして、これからの活動や会計方法、そしてそう遠くない未来の会計予算の推移見込みなども鑑みて、活動方針に沿い1つずつ予算を積み上げ予算書を作成していきました。学校とも相談を繰り返しながら、P T Aが主導となって自分たちの新しいP T A会費を設定することができました。同時に会費徴収に伴うそれぞれの課題についてもあらためることができました。

(2) P T A活動と地域とのつながり

定塚小学校では、学習発表会にあわせてパンフレットを作成していました。地域の企業や個人の多くの皆様に協賛広告として理解や協力をしていただき、パンフレットに企業名や名前を記載し、自治体を通して地域の皆様に配布する形をとっていました。

統合に向けて、この活動をどうするかを再編統合委員会の中でも議論をしてきました。この協賛金は学習発表会のためだけに使用するわけではなく、学校行事の立山登山やスキー合宿時のプロのインストラクター費用の支援、学校図書購入費用の支援などに活用されてきました。

高陵小学校としても、この活動は「P T Aとして取り組んでいくべきこと」と判断をして、継続して行っていくことを決めました。今年度から平米小学校校区の企業、個人の方々にもお願いをすることにしました。多くの皆様に理解をいただきましたが、中には、「なぜ地域の企業が協力しなければいけないのか？」や「お金の使用が不透明である」などの意見もいただきました。今後も協賛広告の趣旨を丁寧に説明していき、理解をいただいてこの活動を少しずつ広めていきます。

定塚小学校校区では、各自治会で回収されている「資源回収」の一部をP T A特別会計に入れさせていただき、学校で子どもたちのために必要な備品等の購入に役立ててきました。これまでの各校区での自治会の歴史や活用方法などの違いもあるため、この活動は現状のままで継続していくこととなりました。



立山登山の様子



スキー学習の様子

平米小学校PTAの「おやじクラブ」では、平米公民館を核とした七夕まつりや公民館まつりなど、地域や児童、保護者が触れ合う多くの事業に関わってきました。また、ボランティアで平米公民館の周りにある樹木の雪囲いなども行ってきました。さらには、この事業の継続を地域とPTA内から強く望まれる意見もありました。しかし、PTAとしての地域事業の関わり方や予算の使い方などの議論を重ね、高陵小学校PTAとしては「PTAとして取り組んでいくべきこと」ではないとの判断で、個々での対応としてもらうこととしました。雪囲いについては、平米公民館で予算を計上して専門業者に依頼していただくようお願いをしました。

統合してからは、地域との関わりが希薄になってきていると感じているとの意見がありました。一方で、雪囲い等ボランティアで携わってきたことが無くなったことは良いことでもあるとの意見もあります。PTA会員としては、その地域だけを考えることも減り、高陵小学校全体を捉えた地域との関わりを考えるようになってきました。



平米公民館 七夕まつり



PTAでやしそば屋台出店



雪囲いボランティア活動

統合によって変わってくる通学路の安全は、保護者にとっては重要な課題の一つです。高陵小学校に通う平米小学校の児童たちは通学路が変わり、距離が伸びることが多く、通学路の安全に対する不安の声が保護者からも多く聞かれました。PTAとしても通学路について高岡市教育委員会や学校と協力し、朝の通学時間帯に合同安全点検を行いました。その結果を踏まえて、令和4年1月には、新しい高陵小学校区の安全MAPが制作され、各家庭に配布されました。統合後も保護者アンケートを行い、通学路の安全に対しての情報を集めて、現状把握に努めています。

こうした取組に加え、朝夕の通学の安全に無くてはならないのが地域における“見守り隊”の存在です。以前から定塚小学校区には、「オレンジパトロール隊」という組織があり、毎朝夕と交差点等に立ち、子どもたちの安全を見守ってくださっています。この活動は、強制的なものではなく、地域の方が家の前を掃除するついでに児童を見守るなど、無理のない範囲での取組が特徴です。統合により、平米小学校区から通学する児童も増えましたが、校区の分け隔てなく温かく児童に声をかけ、見守ってくださっています。

また、平米小学校区の中でも、自発的に見守り活動をしてくださっている方や、出勤前に児童の集団登校に付き沿われている保護者の姿も見られます。



新通学路での見守り活動



パトロール隊「感謝の集い」

こうした状況も踏まえ、高陵小学校PTAとしては、地域全体での見守り活動の機運を高めるとともに、自発的に参加されている方が活動しやすいよう、オレンジジャンパーを新たに制作し、本年9月に配付いたしました。今後とも、児童が安全に通学できるよう、学校や地域が一体となって取組を進めていきたいと考えています。

V. 実践の評価と残された課題

(1) 統合後の評価

統合して早くも2学期中頃も過ぎました。その間に多くの学校事業やPTA活動、地域との関わりを持ち、行うことができました。今のところは、大きな問題もなく進んできているのではないかと思います。

運動会を両地域の方々と参加、見学をさせていただきました。高陵小学校では新しい体操服も使用していますが、それぞれの旧校の体操服も併用して使用しています。新しい高陵小学校の体操服、旧定塚小学校の体操服、同じく旧平米小学校の体操服が入り混じって仲良く移動、応援をしている子どもたちの姿をみて、「両校が統合して本当に良かった」とお互いがそう認識し合いました。子どもたちの順応性はとても高く、子どもたち自身が新しい学校での出会いを心から喜び、楽しんでいるようでした。懸念をしていた「統合での環境の変化への対応」は、今のところ心配がないように感じます。



両校の体操服が入り混じって開催された
第1回高陵小学校運動会

(2) 課題とまとめ

旧定塚小学校と旧平米小学校の再編統合前となる令和2年4月から、PTA組織と活動の統合に携わることができました。先程も記載しましたが、統合をして本当に良かったと思います。しかしながら実際に統合をして今日までPTA活動をしてきて、大きく分けると次の3つの課題があることに気づき、これから考えていかなければなりません。

- ① 高陵中学校区小中一貫校としてのPTA組織、活動の在り方
- ② 統合後の地域との関わり方
- ③ 小学校、PTAの統合後の地域団体の統合

令和8年4月よりあらたに高陵小学校区小中一貫校として開校します。そうすると小中連携で9年間を通じたカリキュラムに沿って教育を行っていきます。今後は、小学校、中学校の垣根をこえて様々な活動や行事に取り組んでいくこととなります。私たちPTAも小中の垣根をこえて、効果的な統合を目指していくべきだと思います。同じ校区内で重複する委員会活動などを見直し、共通して行えるものは一つの委員会にして組織の効率化を図っていければと思います。

統合後には、地域の関わり方にも変化がありました。2つの連合自治会、各種団体が存在することで、2

つの地域活動に参加をしていくこととなります。この状態が続きますと、もしかするとせっかく統合したPTA組織内に、それぞれの校区担当を設ける必要が出てくるかもしれません。それではいつまで経っても真の統合にはなりません。

これらの地域との関わりもあり、今後はそれぞれの連合自治会や各種団体の統合を目指していく必要性を感じています。もちろんそう簡単なことではありません。統合を考えることが可能な団体組織から前向きな話し合いを続けていき、一つ一つ進めていきたいと思えます。

高陵小学校PTAのスタンスとして、地域の統合の必要性を発信し続けていき、小中一貫校として真の統合を遂げたPTAがより生き生きと地域活動に取り組んでいくことによって、それぞれの連合自治会、各種団体に統合へ向けた意識付けにつなげていければ良いと思えます。

学校・地域・PTA（保護者）が更なる連携を深めて、共に子どもたちが安心して心豊かに成長できる環境づくりの支援へとつながる新たな高陵中学校区小中一貫校のPTAを目指して、今後も活動をしていきたいと考えています。